

令和3年度大学の世界展開力強化事業プログラム委員会（第3回）議事概要

1. 日 時 令和4年3月2日（水）10:00～12:00

2. 開催方法 Web 会議

3. 出席者 委員 芦沢委員、岩城委員、岡本委員、荻上委員、勝委員、熊谷委員、
黒田委員、杉村委員、但田委員、長尾委員、日比谷委員、渡邊委員
文部科学省 里見大臣官房審議官、吉岡国際企画室専門官 ほか
事務局 山本日本学術振興会人材育成事業部参事、遠藤同大学連携課長、
持田同課長代理 ほか

4. 議題及び概要

（1）令和4年度新規公募等について

文部科学省から、来年度新規事業の公募について資料1-1、1-2、事務局から、審査方法等について資料1-3～1-6に基づき説明があった。主な意見は以下のとおり。

・審査過程での面接は非常に重要なので必ず実施すべき。インターンシップの実施においては文科省から経済団体への声かけがあればより幅広い業界での実施の後押しになるのではないかと。

・ジョイント・ディグリー（以下 JD という。）については、令和4年8月の制度改正で大学設置・学校法人審議会を通さず届出制でよくなる点は非常に良いが、同時にいかに質保証するかが重要。JD 及びダブル・ディグリーの推進については、まずは学部及び大学院でのダブルメジャーの推進を考えていただけるとありがたい。また、JD 取得者数を本事業の成果指標として導入することも考えてみてはどうか。

・令和3年度新規事業審査時に行った、未採択大学の書面審査点数に1.2の係数を乗じることに関して、どのような総括がされたのか、またその長所と課題は如何。

・新規採択校を増やすという点において、計画のユニークさを審査の観点として追加すると、従来とは違った面白いプログラムが採択できるのではないかと。

・令和4年度公募において、経済安全保障の観点が加わったこと、研究力が高い国が含まれていることを高く評価したい。

・加点評価項目について、申請大学及びその関係大学の強みを明確に調書に記載していただき、審査の際に役立てていただきたい。

・申請にあたっては、第三国の指定はないという点がより明確に分かると良い。また、英国とインドについては追加評価の観点が特記されているが、オーストラリアの New Colombo Plan についても観点として加えても良いのではないかと。

・本事業に応募する大学には、日本が世界の国際交流に貢献するという気持ちを強く持ち、国際関係を重視しているプログラムなのだというをこれまで以上に考えていただき、また、世界的課題である SDGs についても課題解決意識を持っていただきたい。

(2) 令和4年度中間評価について

事務局から中間評価の評価方法等について資料3-1～3-6、文部科学省から資料2に基づき説明があり、原案どおり承認された。

(3) 令和4年度事後評価について

事務局から事後評価の評価方法等について資料4-1～4-6に基づき説明があり、原案どおり承認された。

(4) 海外連携大学の追加について

文部科学省から、海外連携大学の追加について資料5に基づき報告があった。

なお、議題(5)以降については「「大学の世界展開力強化事業プログラム委員会」の審議内容等の取扱いについて」1.(1)①(審査・評価に関する調査審議など公平・公正な審査に影響を及ぼすことが懸念される場合)に該当することから、内容は非公開とする。